

山居倉庫

山形県酒田市



写真 山居倉庫

江戸時代、米作りが盛んな庄内藩では、米の流通を円滑にするため「米札制度」を整え、家臣には給与として米札が支給されお金のように使われた。

酒田を起点とし日本海を南下、下関を通して大阪へと至る西廻り航路が整備されると、庄内で採れた米などを大阪へ運び、日本海・最上川の舟運の要衝となった酒田は、井原西鶴の「日本永代蔵」で“西の堺、東の酒田”と称されるほどに繁栄を極めた。

明治維新後、粗悪な米が出回り落ちた評判を回復し、円滑な米取引の復活を図ろうと、旧庄内藩主・酒井家が全額出資し株式会社酒田米商会所を創立、厳格な品質管理を行った。その後、株式会社酒田米穀取引所となり、山居倉庫はその附属倉庫として1893（明治26）年に建設された。米の品質と容積の統一化、俵は二重包装し黒縄を締めて「山居米」であることを示したことにより、山居米の評価は高まり、山居倉庫の倉荷証券は、日本一有名な米券になった。庄内藩が整えた米取引の仕組みは、株式会社酒田米穀取引所とその附属倉庫である山居倉庫に受け継がれた。

創業当時の景観を残し、日本の近現代の米穀流通の歴史を今に伝える倉庫であり、2021年3月に国の史跡に指定されている。

表紙写真 写真提供：ピクスタ Mugimaki / PIXTA（ピクスタ）

■アクセス

- JR 酒田駅から市営バス約 15 分
- 日本海東北道酒田 IC から国道 7 号経由約 15 分

（表紙の写真）

山居倉庫

場所：山形県酒田市

<参考>

酒田市立資料館第 220 回企画展「国史跡指定記念 山居倉庫は日本一 !! 米都酒田を支えた米券倉庫」

<https://www.city.sakata.lg.jp/bunka/bunkazai/bunkazaishisetsu/siryoukan/kikakuten201-files/0220.pdf>